

経済・金融 フラッシュ

12月 BOE 金融政策委員会: 政策金利据え置き、量的緩和を継続

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

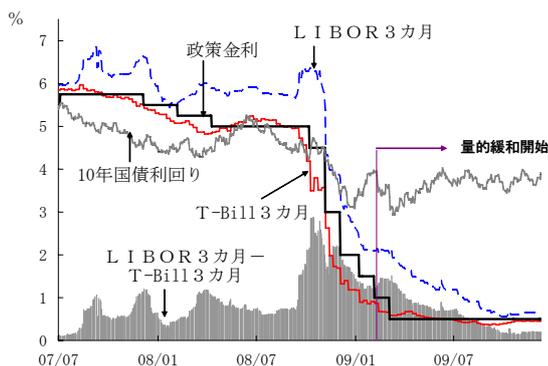
イングランド銀行(BOE)は10~11日に金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利の0.5%での据え置きと11月に2000億ポンドに増枠した中長期国債等の資産買い取り(量的緩和)を継続することを決めた。プレス・リリースでは資産買い入れのための残りの枠を使い切るまでに2カ月を要するとしている。

量的緩和の開始以来、政策変更の決定はすべて四半期に1度の「インフレ報告」の公表月に行われており、次回の政策変更は2月に増枠の停止を決める可能性が高いと思われる。

(政策金利は据え置き、量的緩和を継続)

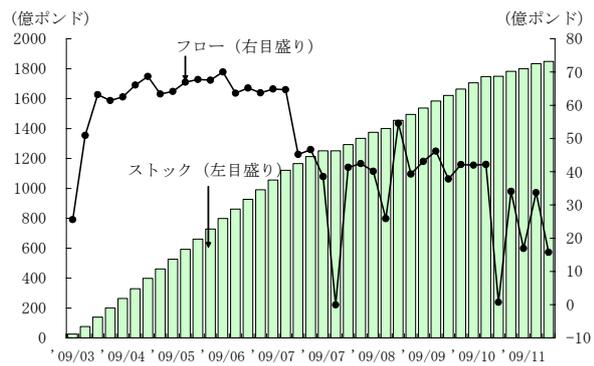
イングランド銀行(BOE)は10~11日に金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利を0.5%で据え置く一方(図表1)、11月に2000億ポンドに増枠した資産買い取り(量的緩和)を、予定通りのペースで継続することを決めた。BOEは12月3日現在、中長期の国債を中心に1849億ポンドの資産を買い入れている(図表2)。声明文では、「残る枠を使い切るまでに2カ月を要する」とされた(議事録は12月23日に公開予定)。

図表1 BOEの政策金利と長短金利



(資料)BOE

図表2 BOEによる資産買い入れ



(資料)BOE

(次回の政策変更は2月、資産買い入れの増枠は見送りか)

資産買い入れは今年3月に750億ポンドでスタートして以来、これまでに3回増枠されているが、いずれの決定も四半期に一度の「インフレ報告」での見通しの修正に合わせて行なわれた。次回の政策変更は、次回の「インフレ報告」公表月であり、現在の枠を使い切る来年2月のMPCで行な

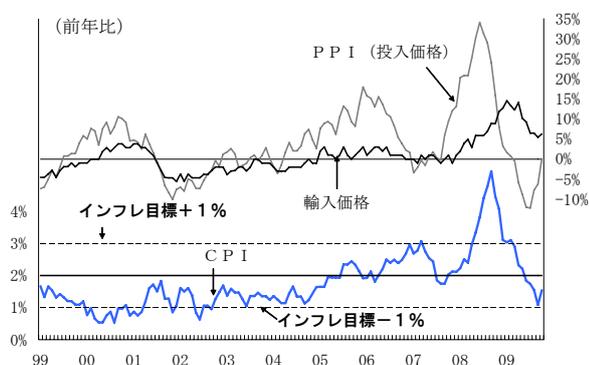
われる可能性が濃厚である。

イギリス経済は主要先進国が揃ってプラス成長に転じた7～9月期も前期比0.3%のマイナスと景気の底入れが遅れたが、10～12月期にはプラス成長に転じる見通しだ^(注1)。しかし、家計のバランス・シートの調整が続くほか、金融危機で揺らいだ基幹産業の金融業への規制強化、リストラの動きを踏まえると、成長の加速は見込み難い。

インフレ率は、前年比で見た原油価格の上昇に加えて、金融危機の後に景気対策として2009年末を期限に引き下げられたVATの基本税率の再引き上げ(15%→17.5%)が2010年の押し上げ要因となるが、景気の回復が緩慢であるため、目標水準(2%)からの上方乖離が想定されるような状況にはない。

来年2月のMPCでの決定は資産買い取り枠の増枠見送りとなり「出口戦略」が始まりそうだが、現在0.5%の政策金利の引き上げに動くまでにはかなり時間がありそうだ。

図表3 インフレ率



(資料)BOE

(注1) イギリス経済の見通しについては Weekly エコノミスト・レター2009-12-11「欧州経済見通しー牽引役不在の調整局面続く」をご参照下さい。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。